



小樽南科大学校歌

金鱗おどる渺しの

あけぼの輝う浪の唄

エルムの花に若人の

渥かなき望を敷く袂うて

曇り美わしの緑ヶ丘よ

ニ夕陽映ゆる白樺の

梢をわたつ風の唄

慈愛の山のふところにて

銀翼みどりき駿足神ありて

唄はがらかの緑ヶ丘よ



小樽商科大学短期大学部学長

加茂儀一





商工経営  
室谷賢治郎教授



外国文学仏語  
松尾正路教授



民法  
木部林二教授



数学  
武隈良一教授



商業学  
岡本理一教授



交通論  
久木久一教授



商業英語  
木曾栄作教授



哲学  
山村三千雄教授



簿記会計学  
石川英夫教授



金融論  
坂口伸六郎教授



經濟原論  
金巻賢字教授



英語  
清水春雄教授



貿易論  
麻田四郎助教授



証券市場論  
木村増三助教授



工場經營  
古瀬大六教授



英語  
速川浩助教授



經濟史  
浜林正夫助教授



日本文学  
広田二郎助教授



金融機関論  
藤沢止也助教授



中国語  
川上久寿助教授



独 語  
前田利道助教授



英 語  
北村正司助教授



体 育  
坂井一 郎 講 師



スペイン語  
一色忠良助教授



原価計算  
久野光朗講師



工業概説  
吉武清彦講師



統計学  
竹内清講師



憲 法  
桑原輝路講師



英 語  
北市陽一講師



教育原理  
鈴木秀雄講師



英 語  
久野光朗講師



商 法  
喜多了祐教授



財 政 学  
早見弘講師





花田 稔事務長

氏名	科目
年	年次
月	生
日	
番号	( )



事務室



山田昇学生係長



村瀬光源職員



小原フミ職員



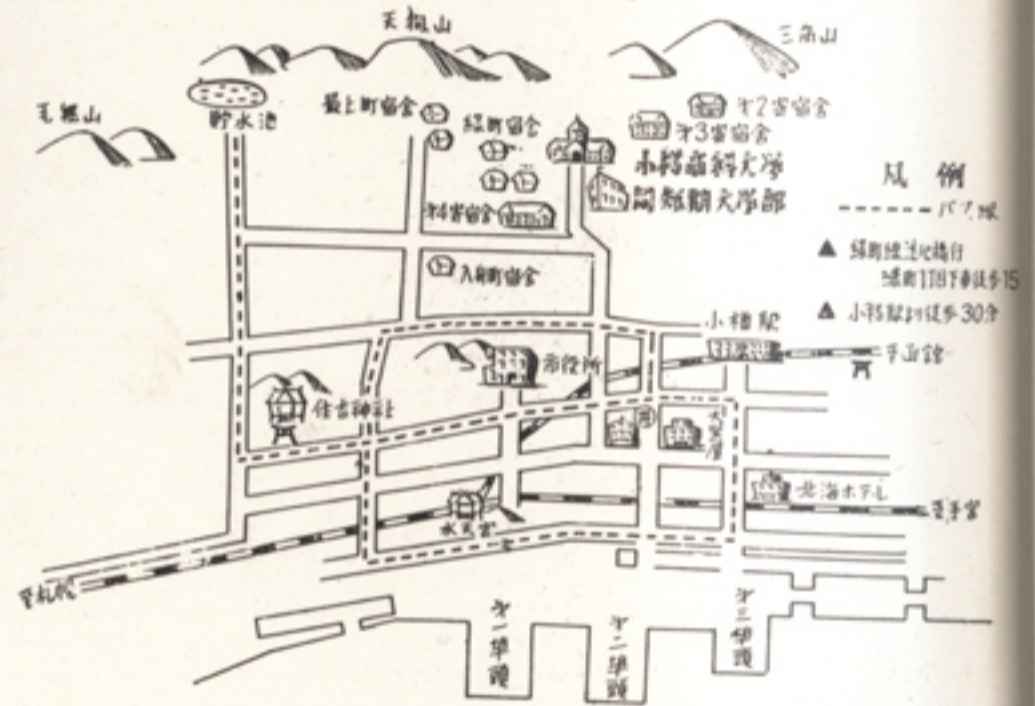


校舎夜景

小樽商科大学配置圖

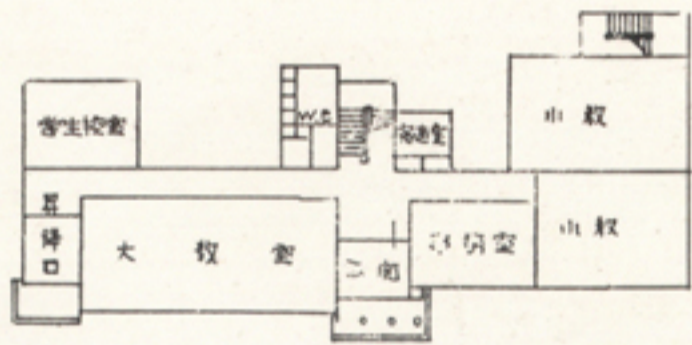


小樽商科大学所在地略圖

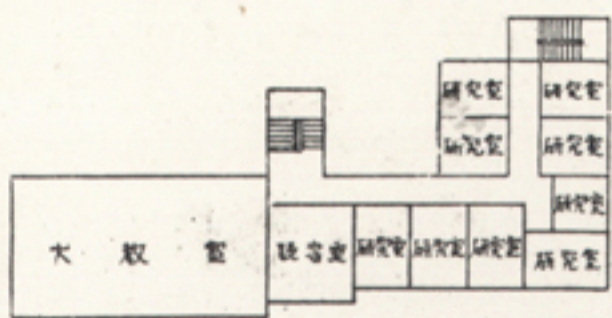


小樽商科大学短期大學部新校舎平面図

縮尺 0 — 5



1階平面図



2階平面図



小樽商大正門

# 学友の集い



職場での友



卒業生一同「オタモイ」にて





小樽港での花火大会



潮陵同窓



図書室にて



C. C. C. (潮陵出身)



札幌汽車通のグループ



経済視察旅行の連中



事務中を囲んで



山に生きる男たち、 山岳部





講義風景



生徒控室



図書室

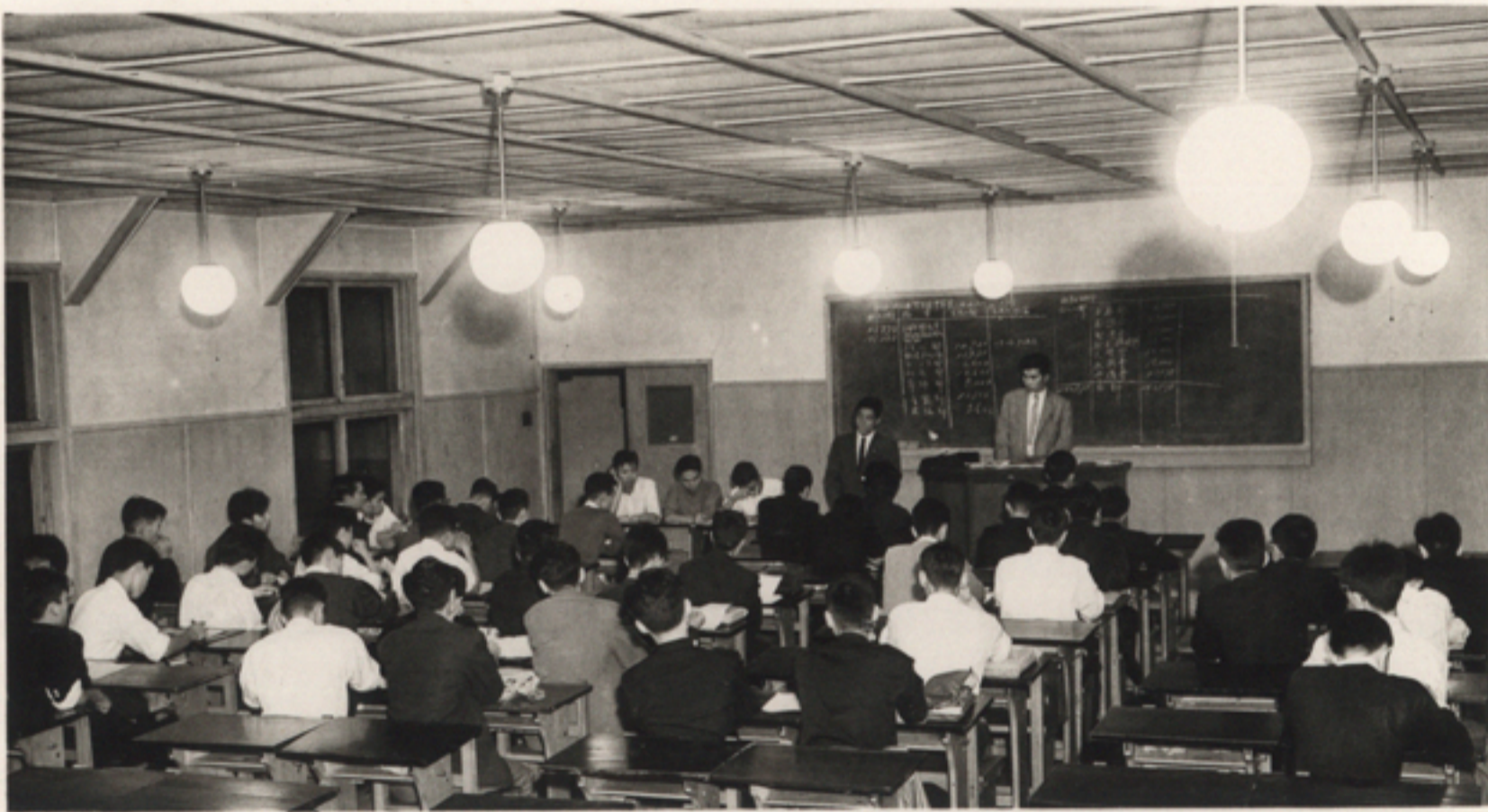


学生ホール

学  
友  
会



新旧学友会幹事の交歓



学友会総会



予算委員会



レクリエーションのコマ



レクリエーションでの旧清水王事の擲球 (本学校路)



オタモイ園遊会の金巻主事の挨拶

# 経済視察



名古屋東山公園



サッポロビール名古屋工場

日本車輛工場風景

九州雲仙



サッポロビール名古屋工場



九州青島



羽田空港

—長崎の崇福寺—



大阪ナショナルテレビ大講堂



大阪日本アルミ工場



長崎浦上天主堂の廃墟



備前忠昭



阿部豊



新谷貞夫



赤沢良弘



藤井良治



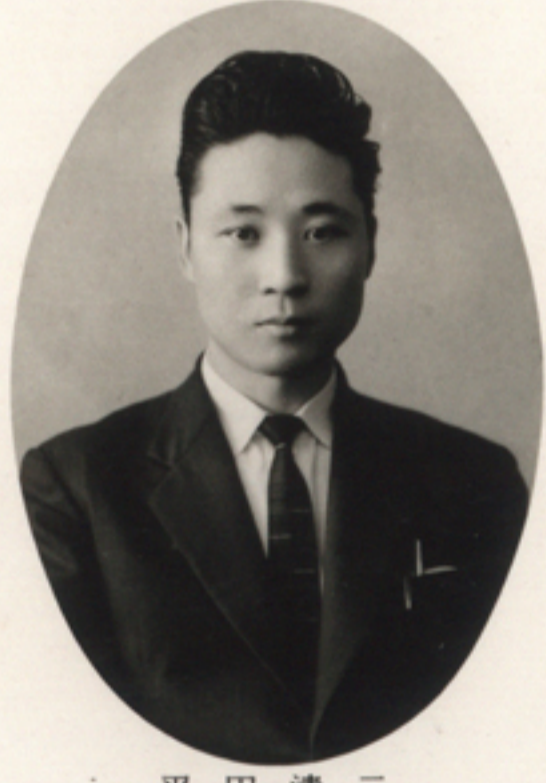
淵上俊夫



惠本扶美子



星寅英



平田清二



橋本睦



藤江弘和



速水哲哉



林達男



長谷川光精



本間洵



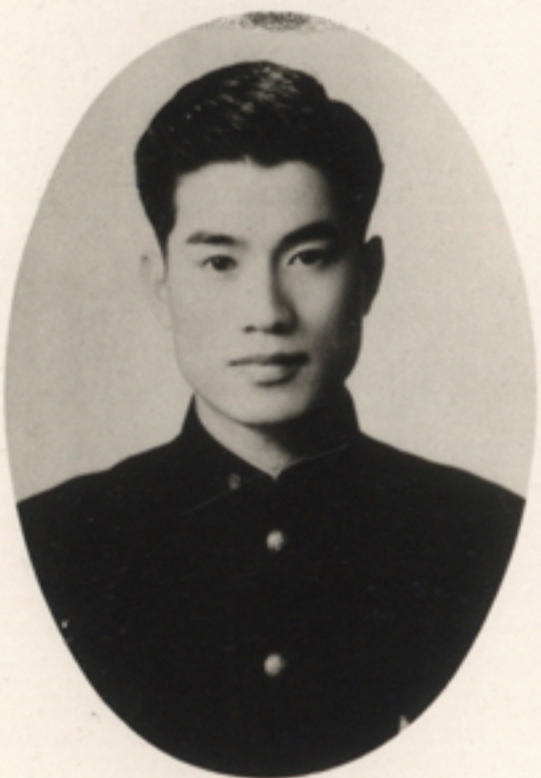
五十嵐章一郎



五十嵐正悦



石田善保



加藤道吉



稲生史朗



伊吹透



今田誠



工藤桂司



古賀浩



加藤安敏



加藤哲雄



亀尾紋弥



川端晃司



小林忠男



小山英夫



村山 尚人



増井 儀



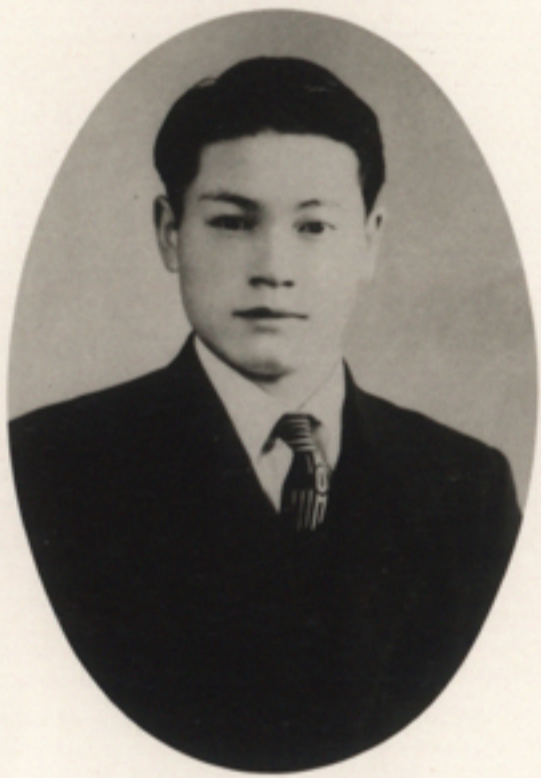
金森 英世



北村 昇三



二反田 敏朗



眞家 守道



村上 浩平



村田 欣也



長縄 信雄



野本 功



根城 英俊



大谷 哲雄



大野 良七



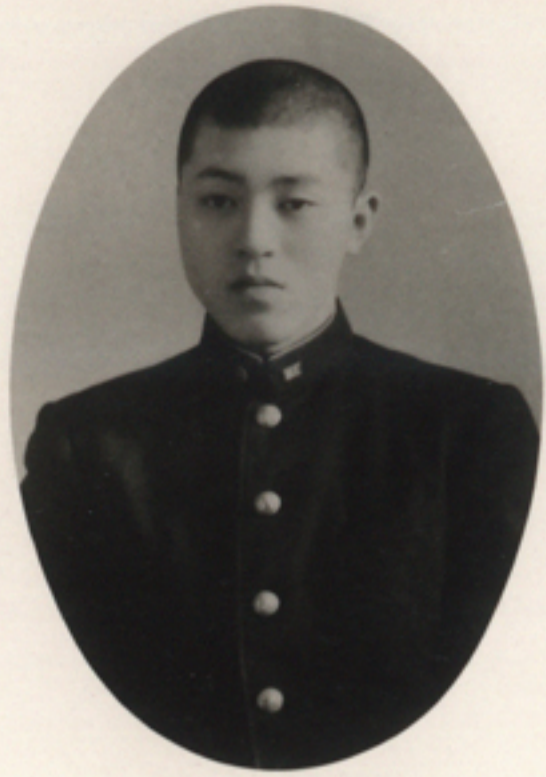
大槻 久則



太田 忠



坪田綾子



常内栄和



常見菊雄



遠田昌司



津田稔



高畑勝彦



高橋浩一



手崎正



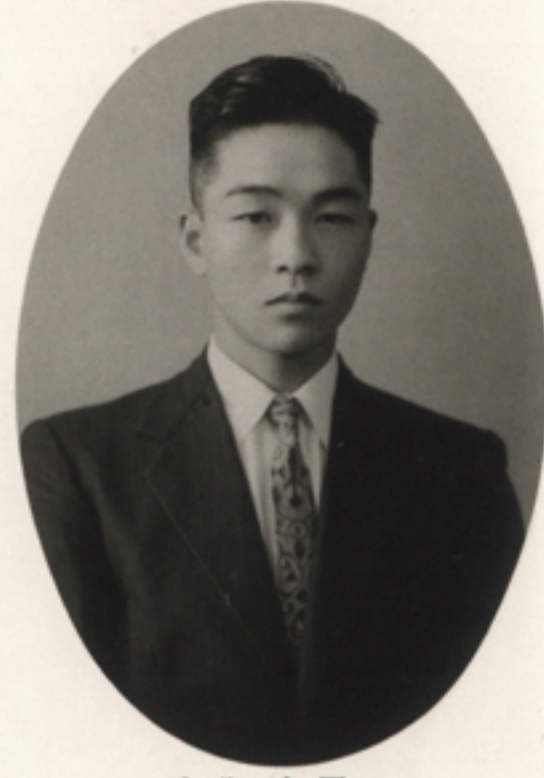
若森章



上野忠男



武田靖賢



千代谷優一



安田隆久



山田慶司



山田光輝





石川洋二



後藤忠芳



米森大



吉田貴司



山下一晴



菅田益生



野坂房市



村上俊之



濱田敏道



森山誠



今井博



地獄坂



編集最中の委員達

編集後記

春秋移り来てここに三歳、夕に星をいびき更けては月を仰ぎながら、一日の勤勞あるいはハルハイトを終えそから通いづけた学会とみ坂道とよほや離別の日が近くなった。想もなある時は残暑あそびき夕日の下、又あつ時は、白雪舞狂う酷寒の日には、まさに地獄坂であつた。くわし春ともなれば垢吹き、アカシヤアにはけう青春の胸のふくらむ坂であつた。夏は緑のトンネル、秋は紅葉の天井となつて、初達の健脚と健康を培う地獄坂でもあつた。その路上に映いた字灯の光は、初達学生にのみ興えられた真理への情熱の在界であり清き心のオアシスでもあつた。緑ヶ丘に静かにともされた学会の灯の中で、初達は多くの苦悩と楽しみ多感な青春を過した。それらの思い出を、再び諸君の眼前に感激も新たにくりひろげつのかこのハルハムである。この一頁、一頁に刻まれた青年の感激と純粋に真の善美と愛する心むきな生活といつまでも失わぬよう努力するならば、これほどよい生き方があつてあろうか。五年後、十年の未来に孤りこのハルハムを手にする時、美しい灯の光の中に永遠に師恩と友愛と稱えるに違いない。



小樽港の朝

小樽南科大学短期大学部  
昭和三十五年卒業  
P.M.M.編集委員  
根城英俊  
五十山正悦  
太田忠  
上野忠男  
宮崎浩一  
加藤道吉



---

昭和35年3月

【非売品】

小樽市稲穂町第二大通り

謹製 加藤写真館  
TEL ㊦0417番

印刷 株式会社 平井真美館

奈良市西木辻町安楽59 電話 3775~6  
東京都品川区北品川115-439 電話 ㊦4825~6

---